

TIJ 日本語教育研究会通信

No.58 2015.10.2 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



灼熱の夏が過ぎ去ったかと思ったら、一転して雨模様の天気。特に茨城県では記録的大雨により、大変な被害が出ました。これだけ科学技術が発達した現代でも、自然の猛威を抑えることは出来ないのだということを改めて感じさせられました。

今年も8月10日11日に、日本語学校教育研究大会が代々木のオリンピックセンターで開かれました。そこで行われた発表を通して、私たちが今抱えている教育の問題を解く様々なヒントを得ることができました。今号でそのご報告をさせていただきます。

今年度から、大学の国際学生友好会の皆様と交流する機会を持つことができるようになりました。5月のスポーツ大会に続き、9月にはTIJの学生との交流授業に、日本人の大学生の方々に参加していただきました。また例年通り、今年も獨協大学の学生さんが教育実習にいらっしやいましたので、そのレポートも掲載させていただきます。

【本号の内容】

1. 2015年度日本語学校教育研究大会参加報告
 - ①「初級クラスにおけるインターアクション授業の実践報告
 - ②アカデミックジャパニーズ習得を目指すノートテイキング授業の実践
 - ③実践共有を通じた学びあい・その方法3
ー非漢字圏学習者への取り組みをトピックにー
 - ④ポスターセッションーFinger Board
2. 早稲田大学生との交流授業
3. 早稲田大学との交流授業を終えてー中級2クラスの報告
4. 教育実習修了レポート

2015 年日本語学校教育研究大会参加報告

今年も 8 月 10 日、11 日に、日本語教育振興協会主催の日本語学校教育研究大会が開催されました。TIJ からも 7 名の教師が参加し、全体会および様々な分科会に出席し、刺激を受けてまいりました。特に印象に残り、今後取り入れていきたいと思った発表について、その報告を掲載します。

— 「初級クラスにおけるインターアクション授業の実践報告」の参加報告 —

この発表は、初級クラスにおける、日本人ビジターを招いての会話授業の実践報告でした。ビジターセッションを通して、日本語能力だけではないインターアクション教育の重要性を感じ、実際の接触場面でどのような日本語を使い、どのようにふるまえばいいかを学習者自身で考え行動できるよう、事前教育をするというものでした。

研究発表の概要は以下の通りです。

使用教材：『日本語でインターアクション』サウクエン・ファン監修、吉田千春編著、凡人社、2014 年

実践目的：過去に行った交流授業の振り返りで、日本語力についての反省はなかったが、社会言語能力に関する振り返りが多くみられ、日本語以外にインターアクション教育の必要性を実感したため。

実践方法：「インターアクションのための日本語教育」とは、日本語教育の最終目標は言語能力のみならず、社会・文化・経済的なインターアクションのための社会言語能力、社会文化能力の育成にある。そのために、接触場面でのインターアクションを授業の中で体験することで、以下の点について、学習者の気づきを促すことを目指す。

①場面を把握する重要性

②接触場面の独自性

③自分に必要なジャパニリテラシー（社会文化+社会言語+言語）の把握

ビジターセッションを行う前に、上記①～③を網羅するクラス目標を立てておき、セッション後にビジターを含めて、本日の振り返りをしてもらう。

授業の成果：クラス目標を達成し、学習者主導の会話が成立した。日本語学習に対するモチベーションが向上した。会話をする中で、学習者が自分の課題を発見することができた。

今後の課題：振り返りの重要性が浮き彫りになった。今後は普通の授業でもそれを習慣づけるとともに、教師側も以下のように意識改革を進める。インターアクション的視点を意識し、授業に取り入れること。学習者の「気づき」を生かしていくこと。

ビジターセッションは定期的・継続的に行っていくこと。

この発表を聞いて以下の感想を持ちました。

TIJ の学生も、初級のうちは会話の授業が楽しくて熱心に取り組みますが、半年・1

年とたつうちに受け身になっていき、2年目になると試験や受験対策もあって、授業は「聞く」スタイルに変化していきます。しかし、彼らが事あるごとに口にするのは「会話が上手になりたい」。それを聞いたたびに、授業中黙って（聞いて）いるのは誰？？と書いていたのですが、それはやはり教師側の授業のしかたに問題があったのです。会話を身につけるために自分から進んで学習するよう、普段の授業も「会話をしたくなる」ように設定することが大切だと気付きました。

日本人大学生との交流授業の報告は、別項でされますのでここでは触れませんが、この発表を聞いてから、私も授業のスタイルを変えています。

まず、授業の前に、「今日の目標」をたてること。目標達成のためにグループ単位で「話し合う時間」を持つこと。話し合いの結果をクラスで「共有」すること。これを実践するだけでも、学生が主体的に参加するようになったことを実感しています。

初級クラスではありませんが、現在担当している大学の授業でも活用していますし、今後も授業に組み入れていきたいと考えています。それについても、いずれご報告できればと思います。

北内直子

—アカデミックジャパニーズ習得を目指すノートテイキング授業の実践—

中級クラスで『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解』という教材を使用して授業をする中で、聞きとることはできても「整理ノート」や「要約」を完成させることが困難な学生を見てきました。今回、「アカデミックジャパニーズ習得を目指すノートテイキング授業の実践」発表があり、何か参考になることがあればと参加しましたので簡単にご報告します。Information Transfer（情報の転換）は言語習得を進める効果があるとする先行研究を受け、中でも進学にも就職にも必要な技能として音声情報を記録する目的で文字情報に転換するノートテイキングの授業の実践報告です。

対象クラス：8カ国からなる多国籍の上級クラス

授業の概要：①ノートテイキングの基礎×2回 ②講義を聞く×4回 の計6回

講義を聞く授業の流れ：

- ①教師作成のレジюмеに沿って講義を聞き、メモをとる
- ②レジюмеとメモをもとにノートを作成する
- ③ノートだけを見ながら講義内容に関する小テストに回答する

*評価はノートのみ。小テストは自分でノートの有効性を確認するためのもの

授業の効果：

- ①談話の機能に着目して情報の取捨選択をし、ノートが取れるようになった
- ②プレゼンのパワーポイント作成が上手になった
- ③留学試験の読解の成績が上がった
- ④外部の日本人からの評価が上がった。「日本人はメモ・ノートを取る人が好き」

ノートを取るという技能が読解の情報処理能力にも影響を与えるという報告は興味

深いものでした。大学進学を希望する当研修所の学生にもぜひ身に付けてもらいたいスキルだと思います。ただし、当然のことながら、これは上級における授業のみで得られるものではなく、初級から上級にわたる長期的なカリキュラムが必要とのことでした。多くは日頃の授業で行っていることですが、教師側に長期的な視点があれば効果は変わってくるのではないのでしょうか。

初級から中級にかけて必要な準備

初級：まずは聞いた音声を再生できること（音声→音声の情報転換）

単語、短文のディクテーション練習を積み重ねる（音声→文字への転換）

漢字学習による語彙増強

中級前期：読解（文字→文字転換）でシート等を利用し機能ごとに、手順なら数字、比較なら対照表などノートをもとめる際のスタイル「型」を学ぶ
聴解の「メモ」で音声→文字転換の練習

中級後期：メモとノートの違いを理解する。メモは音声情報を単に書き留めておくもので母語でも構わない。ノートは記録として残すことを目的にまとめるもので、長時間経過した後に自分が見ても、他者が見ても分かるもの。
情報の機能に注目しどの「型」でまとめるのが適切か判断できる

発表を聞いて授業での苦戦の理由が少し理解できました。ノートの型についての意識付けが不足していること、まとめる際に必要な上位語彙やテクニック（体言止め等）を体系的に教えていないことなどです。進学先の大学で友人とノートの貸し借りする姿を夢想しつつ、現在担当しているクラスでは、まずはしっかりと「メモ」を取りながら聞くよう促しながら、少しずつノートテイキングについても指導していきたいと思います。

祐川知子

—実践共有を通じた学びあい・その方法3— —非漢字圏学習者への取り組みをトピックに—

1. 分科会の狙い

より有意義、有益な実践共有のスキル（知識+技能）を身につけることが第一の狙いとしていました。非漢字圏学習者への取り組みをトピックに、実際に実践共有を体験しながら、より良い学びあいについて考えていきました。

2. 進め方

1) まず、実践共有に関するいくつかの知識を確認しました。

- ①実践共有のための3つのスタイル「実践探求」「授業紹介」「小技・小ネタ・小道具」の特徴と、スタイルの違いによる実践共有の特徴と方法
- ②実践の共有のためのスキル「質問スキル」「メタ・共有スキル」
- ③実践発表のためのスキル「伝えるスキル」

2) 今回は2つの実際の授業例（①ストーリーでの漢字授業、②面接対策の取り組み）の発表をリソースに、グループでの共有を行いました。

※②面接対策の取り組み では、授業例を発表した日本語学校で作成した「面接手帳」というポケットサイズの 冊子をいただきました。これは TIJ の「面接の日本語」と内容はほぼ同じですが、いつでもどこでも練習できるサイズであるということと、(ベトナム人学生向けなので) 別紙にベトナム語訳付きの模範解答が作成してあるという点が良い点だと感じました。

- 3) グループでの共有について、できていたこと、できなかったことの振り返りをチェックリストを用いて行いました。
- 4) 参加者同士の実践共有を”一定のルール”のもとで体験しました。
⇒”一定のルール”とは、①安全な場の相互保証(安心して自分の意見が言える)、②建設的なコメント、③受容(他の人の意見を受け入れる)、④良い質問の4つの約束事を指します。
- 5) まとめの振り返りをしました。参加者全員でグループごとに出たキーワードを共有しました。

参加してみて、”一定のルール”で共有することの大切さを実感しました。特に「安全な場の相互保証」(安心して自分の意見が言える)は大切だと思いました。このルールは会議など共有する必要がある場で活用することによって、自分自身の理解や相手への気づきなどにもつながるのではないかとも思いました。 石井温子

—ポスターセッション Finger Board—

私が参加したポスターセッションは、Finger Board (フィンガーボード) というソフトウェアを使って電子教材を作成することのデモンストレーションでした。

実はこのソフトについては今年の春に、北内先生、佐々木先生と一度入門講座に参加したことがありました。今回のポスターセッションでは、時間も短く、個別の質問に対応しておられることで時間が過ぎてしまいました。しかし、8月30日にも自動詞、他動詞の教材を作ってみようという別の講習会も開かれ、そちらにも山西先生と参加してきましたので、合わせて報告いたします。

このフィンガーボードは、iPad で作成できる電子教材作成ソフトと素材集で、これで作った教材はプロジェクターを使って教室で皆に見せながら授業をしたり、学生たち一人一人のスマートフォン (iPhone, アンドロイド) に送って学生が自習教材として使用したりできるものです。現在、このソフトを使った勉強会がいくつか継続して開かれており、分野も、日本語教育のみならず、特別支援学級や、障がい者用の学習教材としても利用されているようです。文字や絵を指で押さえてスライドさせたり、音声やアニメーションがつけられたりと、いう感覚的な使用感と、それを自分たちで編集、アレンジして使えるということのメリットが大きいのではないかと思います。

特に日本語教育の初級教材においては、メイン教材によって学習者の語彙、漢字の習得順が規定されてきます。メイン教材の進度に準拠した形での、このような電子副教材を教師が手作りできるのは魅力的なことです。

タブレット端末の特徴である、絵を使って視覚に訴えることができ、またその絵にアニメーションがつけられ、音声（教師の声を録音することができます）や文字も埋め込むことができるため、一例として言いますと、①絵を見て学習者がターゲットセンテンスを言う→②その絵をタップすると、発音が聞こえてくるので、先ほどの発話が正しいかどうか、チェックする→③もう一度、発話を確認しながら、学習者はそれを書く→④もう一度絵をタップすると、文字が出てくるので、それで、正しく書いているかどうか、確認する、というような段階を踏んで、学習者は、最終的に目標とする語、文の正しいプロダクションまで、練習ができるというわけです。

このソフトの使い方にはいろいろな可能性があります。例えば、先程述べたものの他に、漢字学習用としては、①最初に表示される漢字のパーツを指でスライドさせて、漢字を構成する、また、②最初に表示されている漢字とひらがなの読み方をマッチングさせる…など、こちらで説明できる以上の利用の可能性があるものと思われます。

まず、私達が講習会で習得しなければいけないのが、このソフトの使い方と、思い通りの機能を教材に盛り込むための、iPad の操作方法です。これが、まだまだ全部習得とまではいかないのですが、何度か講習会に出てみて、全部を知ってからやり始めるというよりは、作りたい教材のイメージがあって、そのために必要な機能を持たせるためにはどうすればいいか、と考えるほうが実践的なのではないかと考えるようになりました。

まず作成したい教材として考えているのが、現在の「はじめよう 初級1, 2」の練習問題の電子教材化です。すでに練習問題集として紙で作られている材料をいかにしてタブレット上で動きをつけて魅力的なものに仕上げられるか。今、まさに試行錯誤が始まったばかりです。

電子教材の利点としては、①視覚と音声結びついた形で練習できる。②何度も繰り返し使える ③学習者がゲーム感覚で能動的に学習に関わることができる、などが考えられます。非漢字圏の学生が増えてきた昨今、毎日何度でもその日学習した漢字を練習してほしいというのが、教師たちの切なる願いです。ゲーム感覚であっても、何度もただ目にするだけでも、脳に、その漢字のイメージが焼き付けられていくのではないかと、そうすることで、漢字学習への苦手が払拭され、彼らが前向きに取り組んでくれればと思っています。

今後の課題としては、作成した教材の保存、受け渡し方法として、学校内でクラウドを使うかどうか、また教材作成をできるだけ多くの教師たちでできるようにするにはどのようなインフラ、研修会が必要か、等々多々ありますが、まずは一步を踏み出したいと考えています。

渡部尚子

早稲田大学国際学生友好会の方を招いた交流授業の報告

IT関係の仕事でTIJに来ていただいているYさんが同サークルのOBだということで、今年から早稲田大学の国際学生友好会の学生さんたちにTIJの学生と交流する機会を持っていただけることになりました。第一回目は6月のスポーツ大会に来ていただき、

今回は交流授業の実施ということで、8月28日（金）中級2・中級3、9月4日（金）中級4・上級の4クラスのTIJの学生が両日も5名の早稲田大学生を交えてグループに分かれ、異なるテーマについて話し合いました。

交流授業の趣旨：

交流授業で同年代の日本人大学生と日本語であるテーマについて話し合う体験を通じて、日本語の勉強に対する動機・目的を再認識する。また、学校の外やTIJ卒業後の進学先で積極的に日本人に話しかけるという姿勢をもつ。

事前準備：

①テーマを選ぶ

新聞の記事などから意見が複数に分かれ、どの立場も理解できるような題材を探す

②活動の流れを考える

授業時間90分中、前後の説明や雑談などの時間を考えると正味60分程度で話し合いと発表を行うようにする

③グルーピングを考える

今回は5名の日本人大学生に来ていただくことになっていたため、5つのグループに分ける。

各クラス学生が15名程度なので、TIJの学生3名程度に大学生1人で一つのグループという構成にする

④目標の設定と共有をする

学生に「目標シート」を渡し、交流授業の趣旨を理解させ、自分の目標を設定するように促す

授業の流れ：

一つの大きなテーマについて話し合うが、その中で質問（議題）は3つにし、一つについて10分ぐらい話し、どんな話が出たか、他のグループと共有するため、一人が発表する形にした。それを3回行い、全員が何か発表するようにした。

振り返り：

授業終了後、学生は「振り返りシート」に記入し、自分の発言・態度を振り返った。その上で、今後の自分の目標を書くようにした。

来ていただいた日本人大学生にはアンケートを書いてもらった。

以下、各クラスのテーマと日本人大学生のコメントを載せます。

1.中級2：テーマ「結婚したいか、子供が欲しいか」

結婚したくない、あるいは子供が欲しくない人が増えていることを新聞記事から知り、それについてどう思うか話し合う

[大学生からのコメント]

- ・活発な授業だと思いました！ただ、母国語で授業中に友だちと話していた方が多かった気がしました。異なる意見もしっかり聞けて、自分自身も勉強になりました。学生さんが知らない言葉の意味を伝える難しさも実感しました。

- ・新聞を使って実践的だったので、とてもよいと思いました。内容も面白かったです。
- ・初めて参加しましたが、日本語を使ってちゃんと考えて発表していたので、驚きました。授業中できるだけ日本語を使うように言っていただけるとよいと思います。楽しむことができてよかったです。また、参加したいです。
- ・「結婚」「子ども」というとても身近な話題で、留学生たちにも私達にも話しやすい内容で助かりました。記事に対する個人的な意見を言い合う中で、自然と日常的な表現を学ぶことができると思うので、新聞を使うのはとてもよかったですと思います。
- ・雑談では話すことがないテーマで様々な国籍の留学生の考えを聞くことができ、新鮮でした。
- ・3,4人のグループごとに話し合った内容を全体で共有するスタイルは議論を効率的に進めることができ、かつ他の意見も聞けてとてもよいと感じました。
- ・新聞の切り抜きを一緒に読んだ後、内容を要約して留学生に伝えることは留学生の語学力を把握してない状態で難しいと感じました。
- ・明るくてとても楽しいクラスでした。

2.中級3：テーマ：「多様性に気付く」

- ①自分にとって何が大切かを「愛情・名誉・自己実現・お金・平和・楽しみ・健康」の7項目挙げ、順位をつける。どうしてその順位なのか理由も考える。
- ②グループ内で理由を述べながら順位を発表する。
- ③グループとしての順位を話し合って決める。お互いが納得するようによく話し合う。
- ④クラス全体で自分のグループの順位を発表する。お互いに質問する。
- ⑤グループを変えてすこし雑談する。

[大学生からのコメント]

- ・おとなしめの学生さんたちだと聞いていたのですが、積極的に話しかけてくれました。みんなの前での発表となると、おとなしい方もいましたが、全体的には楽しかったです。
- ・とても考えさせられる内容でしたし、人や国によって個人差があったのが興味深かったです。数人あまり集中していない人がいたのが気になりました。
- ・授業中、できるだけ日本語を使うように言っていただけるとよいと思います。日本語を勉強する留学生と話ができ、とても楽しかったです。
- ・すごく難しかったです。このようなことを考える機会はなかなかないので、私たちのためにもなったように思います。ただ、テーマが難しかったが故、私達でもサポートしきれない面もあって反省しています。(日本語面でのサポートというよりは、もっと高度な部分で、といますか…)
- ・「大切なもの」の優先順位が全員同じ順位になることはもちろんなく、他の人の意見を取り入れながらグループで順位をつけることは多様性を認める上でわかりやすいテーマだと思いました。

- ・同時に、順位づけが漠然としていて議論が深まりづらかったとも感じました。
- ・留学生の考え方には、どの意見を聞いても納得したのと同時に日本語で上手に伝えられていてすばらしかったです。



3. 中級4：テーマ「大学に行く意味は？」

日本の現役の大学生に今勉強している内容を尋ね、どうしてそれを選んだか、また、TIJの学生は来春から何をしようと考えているのか話す。

大学で学ぶことの意味についていっしょに考える。

[大学生からのコメント]

- ・テーマが深い内容で、自分も考える機会になった
- ・日本人と違う考えもあり、こちらも考えさせられた
- ・自分が勉強していることを簡単な日本語で説明するのは案外難しかった
- ・積極的な人とそうでない人を混ぜた方がいいのではないかと思った
- ・早稲田での授業ボランティアよりスムーズで全員が発表しているところがよい

4. 上級：テーマ「海外で暮らしてみたいと思いますか」

海外で暮らしてみたいか？海外で暮らすとしたら、どこがいいかについて話す
日本の良さ、他の国の良さについて話す

[大学生からのコメント]

- ・とてもフレンドリーな雰囲気だった
- ・身近なことで話しやすかった
- ・日本語が上手な人が多いという印象を受けた
- ・途中でメンバーチェンジしたのがよかった
- ・生徒の意見に他の生徒から質問ができれば、もっとよいと思った

TIJの学生の振り返りシートの感想は皆楽しかったというもので、今後の目標は「もっと自分から積極的に話しかける」「日本人と友達になりたい」という前向きなものでした。やはり、このような授業こそ、学生の日本語の勉強の動機づけになると実感した授業でした。グループ分けについては、振り返りシートの中にも自分から話せなかったなど、初めて会った人と話すのが苦手な学生もいて、私たち教師もいつもと態度が違い、意外に思う学生もいました。しかし、そのような学生も次の機会ではきっと自分から話

そうとするものと期待しています。次回は12月11日(金)に今年の4月に来日した学生のいる2つのクラスでこの取り組みを行う予定です。市川さゆり

早稲田大学との交流授業を終えて—中級2クラスの報告

8月28日早稲田大学の学生5名を迎え、交流授業を体験した。

中級2クラスでは、新聞を使う授業は初めてだったので、わかりやすいグラフがついた記事を選んだ。記事のタイトルは「結婚したい？したくない？」記事自体が短かったので小さいコラムをつけた。「子どもが欲しいか欲しくないか」というアンケートについてとその理由がそれぞれ書いてあった。交流授業は9時半からだったので、その前の30分間であらかじめ用意しておいた新出語彙のシートを使って、みんなで読み方と意味の確認をした。

早稲田大学の学生からは事前に目を通す必要はなく一緒に読むスタイルにしたいという要望があったので、グループごとの自己紹介後、留学生と同時に記事を読んでもらった。クラスの人数は11名だが当日欠席が3名いたので、留学生2人に対して早稲田の方1名でグループを作った。

まず、留学生は語彙の意味確認をすませていることを伝え、10分ぐらいで一緒に読むようにと指示した。留学生がわからないときは早稲田の方に説明してもらいながら一通り読むことにした。あとで、早稲田の学生からのコメントに「学生の語学力を把握していない状態で内容を説明するのは難しかった。」という感想があったが、わからないと言った留学生にわかりやすく説明して下さっていた方もいた。大体の内容を理解しているかを確認後、私から質問を投げかけた。「あなたは、結婚したいと思いますか。」最初自分の意見を決めてからグループの中で発表し、そのグループで出た意見を代表者がみんなの前で発表するという形式で進めることを説明して時間を与えた。5分間で自分の考えをまとめ、次の5分でグループ内で話し合ってもらった。その後、各グループから一人の留学生が代表になりその場で立って発表した。

導入部分だったので、あまり意見が分かれられないような質問にした。大体の人は、結婚したいという答えだった。理由は、一人ではさびしいから。楽しいことなどを分け合う人が欲しいからなど。結婚したくない人は、1名。

そう思う人に会っていないから。考えられないとのこと。早稲田の学生の中には、わざとありがちな答えを避けて答えてくれた方もいて、これからやりたい仕事があるかもしれないときに辞めなければならなくなるのは、嫌だから。自分の思い通りにできなくなるかもしれないからというようなことを言ってくれていた。全部の発表が終わり簡単にまとめてから2番目の話題についての「子どもが欲しいか？」というコラムを読んでもらった。その後、次の質問を書いた紙を全員に配った。

Q1: ①あなたは子どもが欲しいと思いますか。②どうしてそう思いますか。③自分と違う意見を理解できますか。

配布後全員で一度読み、また先ほどと同様に時間を計って話し合ってもらった。

2回目は1回目とは別の留学生が発表した。多かった意見は、子どもは欲しい。かわい

いから。生きがいになるから。家族がふえると幸せだからなどが理由だった。欲しくないと言う意見もあり、その理由はお金がかかる。自分の自由な時間がなくなるからというものだった。③の答えは、理解できない人の方が多かったようだ。全部の発表終了後、2枚目の質問の紙を配った。

Q2: 結婚した相手が自分と反対の意見だったらどうしますか。

この質問の答えは、いろいろだった。自分と意見が違って、好きで結婚したので相手を尊重して自分が我慢する。わかってくれるまで説得する。諦めて離婚するなど。いろいろな意見が出て、グループ内での話も一番盛り上がっていたようだ。

既婚者は二人いるものの結婚や自分の子どもについて現実的に考えられなかった留学生もいたかもしれない。しかし、自分の意見をまとめて人にわかりやすく伝え、自分も人の意見を理解しようとして聞くことの大切さがよくわかったのではないか。そして、自分の話す日本語が通じることの喜びや逆に通じないときのもどかしさ、会話の楽しさも実感できたと思う。のちにいただいたコメントに、クラス内での母国語での会話が多いことに驚いたとあった。それについては再三注意をしてきたことだったので、留学生にあらためて自覚を促し、反省するように話した。

今回の交流授業は、いろいろなことに気づかせてもらえたとてもよい機会だった。早稲田の学生の善意のおかげで、留学生も私も貴重な経験ができたことを心から感謝申し上げます。

吉松眞弓

大学生の教育実習修了レポート

実習を通して

獨協大学 庄司めい

今回 TIJ 東京日本語研修所での実習を通して、今まで大学の教室の中で学んできたこととは異なる、現場の日本語教育を体感することができました。大学では日本語教育に関連する授業をいくつも履修し、模擬授業も何度も経験して参りましたが、実際の教育現場とは全く違うものなのだと気づかされました。大学の授業内での模擬授業で評価の対象となるのは、典型的な例文を用いて美しくまとまった導入、明解な文法解説、テンポの良い練習、そしてユニークなアクティビティでした。いかに独動的、且つ盛り上がる活動を思いつくか、ということに最も重きが置かれているように感じます。模擬授業はあくまで模擬授業ですから、現場でそのような自己満足の授業を行うことは許されないのだと学びました。TIJの先生方は休み時間の度にコミュニケーションを取り、授業の進行度合いや学習者の授業での様子など事細かに報告しあっていらっしゃる、チームとして教育を行っているのだと感じました。

初級から上級まで様々な授業を見学させていただきましたが、単にレベルの違いだけでない、クラスごとの個性のようなものを感じました。大学進学を目指す方が多いクラス、一般の方が混ざっているクラス、中国の方のみのクラス、様々な国籍の方が入り混じっているクラス、騒がしいクラス、控え目なクラスなど様々です。発話が苦手なクラスでは毎日ミニスピーチを行うなど、それぞれに合わせた授業が行われていると思いま

した。文法、会話、漢字などの基本的なものに加えて、上級になるとディベートや新聞の授業も行われ、文法や読解力だけでなく、自分自身の意見を述べるという実際に使える技能が培われていると感じました。またそのテーマは同棲婚や選挙権の引き下げなど、タイムリー且つ学習者の興味を引くものでした。先生方はその都度新聞記事やニュースを探してプリントにまとめているようで、そのおかげで鮮度の良い話題を扱うことができるのだと思います。

私は計2回、最も多く授業見学をさせていただいた初級1のクラスで教壇実習をさせていただきました。初めは名前を覚えられるだろうかと不安でしたが、注意深く観察しているうちに、学習者の顔と名前はもちろん、それぞれのキャラクターまで見えてくるようになりました。得意不得意など見極め、スムーズに授業が進むように指名順等を工夫しました。本番の緊張と焦りで、一回目は終始バタバタしてしまいましたが、2回目では落ち着いて、皆さんの顔をよく見ながら授業を進めることができたのではないかと思います。普段とは異なる環境のためか、クラスの皆さんが非常によく反応をしてくださったことに加え、傍からサポートしてくださった広瀬先生、阿字地先生に助けられ、私自身も楽しく授業を行うことができました。また、丁寧に教案を見ていただき、たくさんのアドバイスをいただきました。

学期末のお忙しい時期にも関わらず、実習を受け入れていただきましたことを感謝申し上げます。先生方の熱心なご指導、また学生の方々との楽しい交流もあり、非常に貴重な経験となりました。2週間本当にありがとうございました。